

シクレソニド使用上のご注意

日本各地で、大小のクラスターからの感染拡大および散発の感染例が報告され、新型コロナウイルス感染症は、新たな感染拡大のステージに入りました。

神奈川県（岩瀬ら）から報告されたシクレソニドの肺炎改善効果は、3症例と限定的ではありますが、ウイルスに対する特効薬のない現状では、重要な報告として日本感染症学会 HP 上に掲載中です。

シクレソニドの使用上の注意点について述べたいと思います。

1. 本剤は、新型コロナウイルス感染が確定している患者様に対して治療目的で使用されません。感染予防目的で使用はできません。（今、従来使用されていた喘息の患者様への本剤の供給が困難になっている地区もあります）
2. 本剤の新型コロナウイルスに対する抗ウイルス効果は、プロドラッグの段階で確認されており、現在までの成績では、調べた他のステロイド吸入薬では確認されておりません（感染研ウイルス3部 松山ら、投稿中）。
3. 使用にあたっては、以下の点にご留意ください。
 - 1) ウイルスが感染・増殖している肺胞上皮細胞に確実に薬剤が到達するようにできるだけ大きく深呼吸し、薬剤の投与と同期させること。これは、従来の経口薬や静注薬が、血流を通じて局所に移行するのとは異なり、いわば自力でシクレソニドを到達させなければならないからです。
 - 2) そのためには、肺炎が進行して、しっかりした呼吸ができなくなる前の段階での投与開始が望ましいと考えます。
 - 3) 吸入がうまくいかない場合、練習用吸入器具などを用いるのも一つの手段です。深い呼吸が困難な症例は、スパーサーなどの補助的な使用などもご考慮下さい。
 - 4) 本剤の吸入時、53%が肺に分布し、30%が口腔内に残存、肺の中では肺胞に多く分布すると報告されています（論文参照）。口腔内の清浄も大事です。
Newman S. *et al.* Respiratory Medicine 2006, 100: 375-384
 - 5) 患者様の症状が改善し、PCR 陰性化・肺炎像が消失しても、深部の肺胞上皮に残存ウイルスが存在し、再び活性化する可能性もあります。退院後も定期的なフォローアップをお願いいたします。
これらの点については、症例が集積した段階で、あらためてご報告いたします。

必ずシクレソニドの使用例の日本感染症学会へのご登録をお願い申し上げます。

（文責 森島恒雄）

2020年3月16日

一般社団法人日本感染症学会